

令和5年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和5年7月24日(月)午後3時00分～5時00分

2 場所 総合生涯学習センター 第1研修室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員(座長)、出相泰裕委員、岩槻知也委員、嶋津敏治委員、
有富恵子委員 (欠席:西本聡子委員)

【事務局】総合生涯学習センター:渡部所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、
糸井事業主幹、管理係長兼情報担当係長、
事業係長、企画推進課主任、職員(記録)

阿倍野市民学習センター:高貫所長 難波市民学習センター:橋本所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当職員

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

① 令和4年度における生涯学習センターの新型コロナウイルス感染症
への対応について

② 生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要(主な発言等) *要旨を表すため一部省略、言い換え等を実施

◆案件(1) 令和4年度における生涯学習センターの新型コロナウイルス感染症への対応 について

(事務局) 令和2年度、3年度は緊急事態宣言等の発出に伴い臨時休館等、非常に難しい施設運営を強いられてきたが、センターとしては、動画配信やオンラインでの実施により、市民の学ぶ機会の確保に努めてきた。

令和4年度においては臨時休館などの措置が行われることはなかったが、一日における感染者数が全国で過去最多を更新するなか、大阪府・大阪市では高齢者に対する外出自粛が呼びかけられ、センター利用にも影響があった。一方、ガイドライン等が改定されるたびに教育委員会と相談しながら、部屋定員の制限を緩和したり、マスクの着用を任意としたりするなどの変更を行ってきた。コロナ禍前の日常をゆるやかに取り戻すべく、令和4年度は対策の変更が行われてきたと受け止めている。

今年の5/8以降感染症の位置付けが5類に変更されたことに伴い、業種別ガイドラインも廃止となった。それによってセンターが主催する事業への参加者や、貸室利用の方々にお願いしてきた感染症拡大防止に関する様々な対応を廃止とした。

◆案件（2）生涯学習センター事業の評価について

分野1：情報収集・提供と学習相談

（委員）LINEの友だち登録件数が増えたというのが顕著な成果であるが、若年層の利用率がどれほど伸びているのかわかれば教えて欲しい。

（事務局）手元に資料がなく、きちんとした数字は後日回答する。

（*後日回答：登録者は50歳以上の方が多くを占めている）

（委員）会場の利用料金を当日払いから一週間前までの事前払いに変更する理由は何か。

（事務局）コロナ禍前には取扱い規程により事前払いとしていたが、コロナ禍になってから、例えば臨時休館などにより急遽返金手続きが必要となることから、そういう事態にすばやく対応できるよう当日払いとしていた。

（委員）事前払いというと、会場まで足を運んで直接支払いをするという事か。

（事務局）例えば、定期的に利用される団体には次回分を支払ってお帰りになるという形をお勧めしている。遠方の方の場合等は利用当日の受付も柔軟に対応している。

（委員）利用者の立場からすると、利用前に一度足を運ばないといけないとなると使いにくい。振込などができるともっと使いやすいと思っている。事前払いになり使いにくくなったのかと思ったが、そのような対応をしてもらえたら安心した。

（委員）先進的な大阪市であるので、料金支払いのシステムを今後検討いただければ幸い。

（事務局）貴重なご意見として、今後検討していく。

分野2：現代的・社会的課題に関する学習機会の提供

（委員）評価指標・目標値のところで、「引き続き学習を続けていきたいと思う」という問いをしているが、これはそのテーマに関して関心を持ったので引き続き学習をしたいという意味なのか、それともこの講座が楽しかったので学習そのものをしていきたいという意味のどちらか。

(事務局) 概ね受けた講座の似たようなテーマに関して学習をしたいということでお書きいただいていると考えている。

(委員) 「いきいきセミナー」だが、今年度はたまたま 50 歳以上の聴覚障がい者限定だったのか、年度によっては視覚障がい者も含まれるのか。

(事務局) 「いきいきセミナー」については、50 歳以上の聴覚障がい者を対象に長年実施している事業であり、視覚障がい者等への講座はセンターでは現在実施していない。

(委員) いろいろなことで障がいを抱えている人がおられるので、追加の講座で違った層の方々が学習機会を得られればと思った。

(委員) 今、委員がおっしゃったことはとても重要なことで、合理的配慮という言葉があり、聴覚障がいの方以外にたとえば視覚障がいであるとか、さまざまな障がいを有する方々にも講座を受けられるようなそういった配慮をお願いしたいと思う。

(委員) 「基礎レベル日本語教室」について、初めて日本語を学ぶ外国人を主な対象としているようだが、ここには日本で生まれ育ち日本語の読み書きが難しい人は含まれていないのか。日本で生まれ育った若年者で読み書きに不自由している人がいることが少しずつわかってきているので、対応が必要だと思われる。

それと令和 4 年度、阿倍野市民学習センターの「基礎レベル日本語教室」の参加者が急増したということだが、その要因や、参加者がどのような国から来ているのか聞かせて欲しい。

(事務局) 「基礎レベル日本語教室」については、最初にレベルチェックを実施しており、まず自己紹介ができるか、名前が答えられるかという質問をしている。特に日本で生まれ育った人を対象外とはしていないが、読み書きは不自由されていても、流暢に話されるので合格しないと考えられる。日本で生まれ育った方で読み書きに不自由している方には、生涯学習センターでは、総合の「よみかき茶屋」、阿倍野の「あべの日本語よみかき教室」、難波の「にほんご・なんば」という 3 つの教室で対応している。

「基礎レベル日本語教室」への参加者が阿倍野市民学習センターで急増した理由は、昨年コロナの規制が緩和されて外国の方がたくさん来はじめたのが夏だったため、10 月開催の阿倍野で増えたのではないかと分析している。国籍は圧倒的に中国からの方が多い。

(委員) 成人基礎教育としての識字が評価対象に入っていない理由は何か。評価の対象となる事業は、どういう基準で選ばれているのか。

成人基礎教育の施策は国際的にみると重要で、本当は国が責任をもって取り組まねばならないことだができていないというのが現状。そこを大阪市が取り組んできていて、結構重要な柱だと思っていたので、なぜ対象にあがっていないのか、疑問に感じた。

(事務局) 今回の評価対象としてはアンケートを取るなどによって数値化できるものを選んだ。決してここに選んだものだけが大事であるということではない。評価対象としていない事業についても、ご質問いただきながら、事務局としてそこも意識してお答えしていきたい。

(委員) 先ほどレベルチェックの話が出たが、そこではじかれた日本の方はどうなっているのか。

(事務局) 日本の方だけでなく外国の方もすべて、学習者の住所や勤務先と照らし合わせながら、先ほど話した「よみかき茶屋」や市内にたくさんある「識字・日本語交流教室」などで行きやすい教室を個別に案内している。

(委員) 先日、事務局の案内で「出来島小学校識字・日本語交流教室」を見学させてもらった。精力的にやっている様子がよくわかった。

分野3：人材養成・研修

(委員) 生涯学習推進員研修などを見ると、最初からの人は長く続けてもらえるが、新しく入ってくる人がなかなか出てこない。生涯学習ルームの参加者も高齢化しており、この打開策を生涯学習推進員協議会でも考えていかないといけないと悩んでいるので、ご意見いただければ。

(事務局) 平成30年位から養成講座で何人委嘱されているか見てみると、多い時は90人位、昨年とか今年は30人と少し。コロナ禍が原因かもしれないがトータルで委嘱数は減少しているように思える。どこの校区も次の担い手をどうするかが課題となっており、日頃からPTA等の方と一緒に楽しい事業を体験するなど、何か引き継ぐ良い仕組みが出来たらいいと思っているが、難しい状況である。

(委員) 私の学校でいうとPTA会長、副会長をした人は次の年には生涯学習推進員に入ってもらおうようお願いしている。でも、PTAが終わった後は正直やりたくないと思っている方がいるなど、こういう活動への気持をどうやって持っていただくのかすごく難しい課題と感じている。

私自身はぐくみネットコーディネーターを担っているが、5年位やってから2年位は相談員、そのあと卒業という形にしているの、一定の人数が確保できていると思う。

生涯学習推進員に関してもシステムのしていくと、もう少し増えるのではないか。他の地域がどのような決め方をしているのかわからないが。

(委員) 報告だとコロナ禍で対面研修があまりできなかったということだが、今後、対面研修を拡大、増加させていきたいと書いてあり、それはいい事だと思う。

それと関連だが生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターについては、本当は一緒に研修を受けてそれぞれ何をやっているのか双方にわかればいいのだが。一部両方やっている人がいると思うが、どれくらいの人が重複してやっているのか。

(事務局) 配布した調査研究報告書では、はぐくみネットコーディネーターに委嘱前後の地域の役割を聞いているが、委嘱前はPTAが非常に多く、生涯学習推進員とルーム運営委員を現在担っている人が80人位。正確な数字の資料は今手元にないが、調査研究のアンケートでは2割程度の人が重複している。

(委員) 生涯学習推進員もルームの活動などで、どのような資源があるかなどをわかっておられるので、生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターが同じ人なら両方が分かるし、別の人ならそれぞれ、お互いがやっていることを分かれば連携できる。

はぐくみネットコーディネーター対象の調査で、こういった課題があって、今後センターとしてこれに対してどう関わっていこうと思っているのか、センター自身の認識を話してほしい。

(事務局) 基本的にセンターははぐくみネットコーディネーターに研修を通して関わっている。アンケートにもあったが、研修を受講したことがない人が57.7%で理由を尋ねると、「忙しい、研修の事を知らない、任意だから受けない」など。今後どのようなことを学びたいかという項目では、他校区の事例を知りたい、はぐくみネットのいろいろな立場の人をつなげる技術、コミュニケーション力などがあり、その中のいくつかは研修に位置付けているので今年度は対面で実施したいと思っている。全体的な悩みとして感じたのは、はぐくみネットの認知度が低い、はぐくみネットコーディネーター自身が、役割がわからないというのがあったので、そのあたりを調査研究の報告をふまえて今年度からさらに活かしていきたい。

(委員) 確かにいろいろな事例を聞いて学ぶのは大事なので、今回の調査の課題をぜひ研修に活かしてほしい。

分野4：企画開発とネットワーク

(委員) 「NPO・市民活動企画助成事業」の助成金額は、1団体20万円か。

(事務局) はい、助成金額としては上限 20 万円で、団体によっては半分だけという団体もある。

(委員) これだけのお金を使ってというのは私も見たことがない。非常にいいと思う。

(委員) 「NPO・市民活動企画助成事業」に申請するには特定の条件があるのか。

(事務局) 応募資格は、「5名以上の会員で構成されていること、会員の過半数が大阪市内在住もしくは在勤者であること、または大阪市内での活動実績がある、あとは他の大阪市の助成を受けていないこと、政治活動、宗教活動もしくは営利活動を行う団体でないこと」としている。大阪市内在住の人が半数を満たしていれば学生も応募可能である。

(委員) 「社会人の学び直し情報」を実現してもらいたい。ここに掲載してもらうには大学側から申し込みが必要か。

(事務局) 令和5年度も追加しようと考えており、センターと連携講座など関係がある大学にこちらからオファーしていく。

分野5：区や地域における生涯学習の支援（「教育コミュニティ」支援）

(委員) 区の生涯学習推進員の連絡会にセンター職員が参加し、大阪市としてはどうしているのか説明してもらえると、これからの推進員活動に有効だと思う。大阪市生涯学習ルームふえすていばるの状況も動画を発信してもらいたい。今年度も阿倍野市民学習センターで大阪市生涯学習ルームふえすていばるを開催させてもらうが、舞台発表をしたいという区がたくさん出ているのは、皆さんに成果を見て欲しいという気持ちがあるからで、何かきっかけがあれば幅広く広がっていくと自分自身も感じている。センター職員には区の連絡会に年2回位来てほしいと思う。

分野6：利用促進とサービス向上

(委員) モバイルWi-Fiの本格導入に向けて試行しているというのは、すでに貸出しをしているということか。

(事務局) はい、貸出している。

(委員) 料金はどれほどか。

(事務局) 試行であるため無料で貸し出している。

(委員) 通信状況はどんな感じか。

(事務局) 概ね良好だが、時々少しつながりが悪くなることはある。

オンライン会議の主催者になると通信量を多く消費してしまう。モバイルWi-Fi1台につき3日間で15GBまでという利用上限があり、上限を超えるとその後3日間は使用できなくなり、4日目に元に戻るという仕組みになっている。以前1回で11GB使用した団体もあり、こういった使い方が多いと次の団体へ貸し出しできないという状況になってしまう。そういう傾向も見極めていく必要があるので、試行を続けている。

(委員) 何台かあれば1台が使えなくなったとしても回せるが、それだけ費用がかかるということか。

(事務局) はい、今、4台で回している。

(委員) PTAの会議など、オンラインですとなれば料金が高いので、こういう形で貸してもらえればありがたい。今は無料という事だが有料で貸し出す場合はどの位の料金を考えているのか。

(事務局) 以前アンケートを取り、いくらなら借りたいか、と具体的な聞き方をしたが、無料から500円、1,000円まで様々であった。

(委員) センターに費用もかかっている所以で無料は無理でも、500円位なら借りたいと私なら思う。ぜひ導入の検討を今後もよろしく願いたい。

(事務局) できれば施設として全室に環境が備えられれば良いと考えているが、費用が一気にかかるため、検討が必要である。

座長まとめ

分野1については、LINEのお友だち登録件数が増加しているがどういう年齢層なのか、マーケティングの観点からも重要なので、ぜひ分析してほしい。2つ目はキャッシュレス決済やネット上での抽選会についてぜひこれからも前向きに検討してほしい。

分野2については、現代的・社会的課題に関する部分で、外国籍の方たちだけでなく、日本に住んでる方で日本語が難しい方についても学習できるような形にしていく必要がある、いろいろな機関や生涯学習ルームにおける識字・日本語交流教室などで学んでいただける形になっている。「いきいきセミナー」について、聴覚障がいや有する方だけでなく、視覚障がいや様々な障がいを有している方々に対する合理的配慮に基づいた

参加者の拡大という事をこれからめざしてほしい。

分野3については、生涯学習推進員の高齢化が目立っている中、これからの持続可能性をどう図っていくのか、これは生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーター双方に有意義な連携を考えながら引き続き検討してほしい。

分野4については、「NPO・市民活動企画助成事業」について、これからもこういった形で引き続き進めて欲しい。社会人の学び直し情報はこれからも大学に働きかけてやっていただきたい。

分野5については、防災学習プログラム第3弾として、外国人とともに学べる「OSAKA防災タイムアタック！」の開発に着手されており、これは大いに期待したい。災害時に情報弱者になりやすい外国の方達のために、こういったことができるのか、これは非常に良い企画だと思う。それから各区の生涯学習推進員連絡会にセンター職員が参加してもらえると、とてもいい刺激を受けるという意見があった。

分野6については、モバイルWi-Fiの本格導入に向けて、利用料金を含め今後も検討してほしい。

あと追加で何か意見はあるか。

(委員) オンライン事業について、ライブ配信で実施した8事業の中でブレイクアウトルームとかを用いて、受講者同士で交流し合う場面があったのか。

またオンライン講座に参加する人に、なかなか外に出られないのでオンライン上で交流したい人と、対面で人に顔を見せて参加するのは躊躇するのでオンラインを選んだ人の両方がおられるのを初めて知った。実際違うニーズで参加されているという点で対応に困ることもあると思うが、センターではこのような経験はあるのか。

(事務局) まずブレイクアウトルームの講座については、ネットワークサロン「ウェルビーイング・ダイアログ・カード対話会」という講座で実施した。アンケートを見ると「オンライン上でもスムーズに交流できてよかった」などの意見もあった。それ以外は一方向的に話を聞く講座がほとんどであった。

その他、「親力アップサポータースキルアップ研修」では対面型とオンライン配信を実施したが、支援者が参加していたこともあり、「オンラインがあって非常に助かった、ここには来られないが非常に聞きたい内容であったので空いている時間に聞けたことがすごくよかった」というアンケートがあった。基本的には対面がしんどいというような意見は見受けられなかった。